

所員活動一覧（二〇一三年一月一日～二〇一四年三月三十一日）

荒木 浩

●著書

『高等学校 古典B 古文編』（伊井春樹他と共著）第一学習社 二〇一四年二月 二五六頁

『高等学校 標準古典B』（伊井春樹他と共著）第一学習社 二〇一四年二月 三〇四頁

『高等学校 標準古典A 物語選』（伊井春樹他と共著）第一学習社 二〇一四年二月 二〇八頁

『かくして「源氏物語」が誕生する 物語が流動する現場にどう立ち会うか』笠間書院 二〇一四年三月 四〇五頁

●論文

「東アジアに立つ日本古典文学研究—インドとベトナムという場と視点から—」『第4回東アジア日本研究フォーラム 東アジアにおける日本研究の国際協力と連携』（二〇一三年二月七日～八日、釜山海雲台グランドホテル、主催：韓国日本学会、国際交流基金、後援：秀林文化財団） 三三～三五頁

「四方四季と三時殿—日本古典文学の庭と景観をめぐって—」白幡洋三郎編『作庭記』と日本の庭園』思文閣出版 二〇一四年三月 二一三～二三五頁

「スパイラルなクロニクル—説話文学研究と一九五〇年代の視覚文化」劉建輝・佐野真由子編『日本研究』再考—北欧の実践から—北歐シンポジウム二〇一二—』国際日本文化研究センター 二〇一四年三月 一一九～一二九頁

●その他の執筆活動

「もっと知りたい！（2） 政治と文学が濃密に絡み合った院政期」『週刊 新発見！日本の歴史』一七号 朝日新聞出版 二〇一三年一〇月 二六～二七頁

「特集 夢か、うつつか 『夢をみる／夢をかく』」『月刊みんぱく』二〇一四年三月号 国立民族学博物館 二〇一四年三月 二～三頁

「知らねば 平成二六年度前学期総研大生セミナー 研究者インタビュー」『総合研究大学院大学』二〇一四年三月 一〇～一三頁

「総研大の広報活動―世界戦略としての学生リクルート」『日教研』五二号 二〇一四年三月 六一～六三頁

磯前順一

●著書

『ザ・タイガース 世界はボクらを待っていた』集英社新書 二〇一三年一月 二八六頁

『종교와 식민지 근대—한국종교의 내면화 정치화—어떻게 진행되었나』책과 함께 2023년『宗教と植民地近代―韓国宗教の内面化、政治化はどのように進行されたか』本とともに社』

●論文

「祀られざる神の行方―神話化する現代日本」『現代思想』二〇一三年十二月増刊号 青土社

「ザ・タイガースとルー・リード―日本ロック史の盲点」『KAWADE 夢ムック ルー・リード』河出書房新社 二〇一四年一月

「無垢なるナルシズム―『はだしのゲン』と戦後日本の平和主義の行方」『「はだしのゲン」を読む』河出書房新社 二〇一四年二月 一八〇～一九一頁

●その他の執筆活動

「ザ・タイガース 四四年後の音―自分の生き様を表現」『中外日報』二〇一四年一月二三頁

「ぶんかのミカタ 改めて、恋愛（上） 終わりなき旅が『出会い』生む」『毎日新聞』（大阪版・夕刊） 二〇一四年二月二〇日

伊東貴之

●著書

苅部直・片岡龍編（郭連友・李斌瑛等訳）『日本思想史入門』（共著）北京・外語教学与研究出版社 二〇一三年二月 三四六頁

●論文

「伝統中国をどう捉えるか?―研究史上のポレミックに見る儒教の影」『現代思想』二〇一四年三月号「特集…いまなぜ儒教か」vol. 四二―四

青土社 一五四〜一六六頁

●その他の執筆活動

『項目執筆』『王夫之』『王鳴盛』『顔元』『顧炎武』『費密』『熊伯竜』『李塨』『呂留良』岩波書店辞典編集部編『岩波 世界人名大辞典』岩波書店 二〇一三年二月

『街場の「中国」論も花盛り！——異質で不可解な隣人と如何に向き合うか、という姿勢こそ』〔二〇一三年／中国文学・文化・年末回顧〕『図書新聞』第三一九九号 二〇一三年二月二日号

『項目執筆』『朱子学与陽明学』『專欄・中国情趣与中国学』『思想家群像・島田虔次』荻部直・片岡龍編（郭連友・李斌瑛等訳）『日本思想史入門』北京・外語教学与研究出版社 二〇一三年二月

『平成二四年度釋奠記念講演 現代中国における儒教の復興とその意義』史跡足利学校研究紀要「學校」第一二号 二〇一四年三月 一八七〜二〇七頁

『書評 井上進著『明清学術変遷史——出版と伝統学術の臨界点——』』『東洋史研究』（東洋史研究会）第七二巻第四号 二〇一四年三月 七一〜八五頁

稲賀繁美

●著書

『絵画の臨界―近代東アジア美術史の枢樞と命運』名古屋大学出版会 二〇一四年一月 七八八頁

Vocabulaire de la spatialité japonaise, Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu et Inaga Shigemitsu eds., CNRS Éditions, Jan. 2014, pp. 605.

●論文

『西欧モデルニテに対峙する日本の伝統工芸…アンリ・フォションの両大戦間期の考察を導きに』三浦篤編『往還の軌跡…日仏芸術交流の一五〇年』二四一〜二六五頁 “Arts et métiers traditionnels au Japon face à la Modernité occidentale (1850-1900): A l'écoute d'Henri Focillon? quelques observations préliminaires,” *Projeteurs d'aller-retours: 150 ans d'échanges artistiques franco-japonais*, pp. 122-134 三三社 二〇一三年

一一月

『日本美』から『東洋美』へ?——継承と再編の軌跡」荻部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士編『岩波講座 日本の思想 第七巻 儀礼と創造——美と芸術の原初——』岩波書店 二〇一三年二月 二六七〜二九一頁

『思想の言葉…『道ハ沖ナリ』——器と亀裂(ギャップ)についての断章』『思想』二〇一四年第一号 No. 1077 岩波書店 二〇一四年一月二〜五頁

『遺伝子情報の繭に包まれた蛹はなにを考えるか?——工藤哲巳没後二五年回顧展に寄せて』『あいだ』二一〇号(連載第九九回) 二〇一四年一月 三五〜四二頁

『交易の海賊史観にむけて…美術品交易を中心にして』徐興慶編『日本学研究叢書八 近代東アジアのアポリア』国立台湾大学出版中心 二〇一四年一月 一二三〜一五二頁

『市場価値形成の一齣…モダニスト美学の起源と市場調査の昇華…エドゥアール・マネ売り立てにおける市場戦略』永井隆則編『探求と方法…フランス近現代美術史を解剖する…文献学、美術館行政から精神分析・ジェンダー論以降へ』晃洋書房 二〇一四年三月 一三九〜一六二頁

『二支神 午——馬イメーシの日本の変貌』『あいだ』二一一号(連載第一〇〇回) 二〇一四年三月 三一〜三六頁

『敗戦後』と『近代以降』のあいだ…晚期前衛時代の日本美術を鳥瞰する歴史史料の英訳選集を吟味する——*From Postwar to Postmodern: Art in Japan 1945-1989* 書評』『表象』〇八 月曜社 二〇一四年三月 二三四〜二三八頁

●その他の執筆活動

『美術館と記憶の磁場』『交差する表現—工芸／デザイン／総合芸術 Cross-Sections 1963-2013』展によせ』京都国立近代美術館ニュース『視る』四六五号 二〇一三年二〇月 五〜八頁

『日本文化の海外交信前線基地 パリのジュンク堂書店——書店の現在を考える(4)』『図書新聞』第三一三二号(連載一三九) 二〇一三年一〇月

『書評 遠田勝著『転生する』物語—小泉八雲「怪談」の世界—』(新曜社、二〇一一年)』『比較文学研究』第九八号 東大比較文学会 二〇一三年一〇月 一五〇〜一五五頁

「第一三回国際神道研究会『西洋作家の神道観―日本人のアイデンティティを求めて―』『神園』第一〇号 明治神宮国際神道文化研究所
二〇一三年一月 二九～三六頁

「知的偽善への対抗のために―『世界美術史』構想とその陥穽(1)』『図書新聞』第三二四八号(連載一四〇) 二〇一四年三月

「アメリカ・シェルギルとその『姉妹』たち―『全球的世界美術史』構想とその陥穽(2)』『図書新聞』第三二四九号(連載一四一)
二〇一四年三月

「透視図法的 master narrative の彼方へ―『全球的世界美術史』構想とその陥穽(3)』『図書新聞』第三二五〇号(連載一四二) 二〇一四年
三月

「譬話の伝授(知性の世代相統のために)』藤原書店編集部編『内田義彦の世界1913-1989 生命・芸術そして学問』藤原書店 二〇一四年三月
七六～七八頁

「フランスの研究所と大学システム』『日文研』五二号 二〇一四年三月 四九～五二頁

井上章一

●著書

『日本人とキリスト教』角川学芸出版 二〇一三年一〇月

●その他の執筆活動

「思春期の性にたちむかう子供たち』『青少年問題』第六五二号(第六〇巻秋季号) 二〇一三年一〇月

「書評 大津雄一著『平家物語』の再誕』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一三年一〇月二日

「書評 下川耿史著『混浴と日本史』(筑摩書房)』『週刊読書人』二〇一三年一〇月一八日号

「書評 秋山敏郎著『ダ・ヴィンチ封印』(タワウラ・ドーリア)の五〇〇年』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一三年一〇月二三日

「書評 渡辺裕著『サウンドとメディアの文化資源学』』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一三年一月一三日

「パネルディスカッション 日本の美学『陰翳礼讃』』(ジョン・バー・面出薫・たつみ都志と)『武庫川女子大学生活美学研究所秋季シンポジウ

- ム記録集』二〇一三年一月
- 「東南アジアの民族建築から、日本列島の建築史を読みなおす」『第二〇回海外シンポジウム紀要「日越交流における歴史、社会、文化の諸課題」』国際日本文化研究センター 二〇一三年一月三日～四日
- 「書評」図説 アルプスの少女ハイジ 「ハイジ」でよみとく一九世紀スイス」ちばかおり・川島隆／河出書房新社』『週刊ポスト』二〇一三年一月八・一五、二〇日号
- 「講演 美人の運命を、古典に見る」『京都語文』二〇号 佛敎大学国語国文学会 二〇一三年一月 四六～五六頁
- 「現代の建築家・一六 菊竹清訓―スカイハウスは、こう読める」『GAJAPAN』125 二〇一三年一月
- 「書評 磯田道史著『歴史の読み解き方』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一三年二月四日
- 「書評 戸田学著『上岡龍太郎 話芸一代』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一三年二月二五日
- 「回顧二〇一三 私の三冊」『日本経済新聞』二〇一三年二月二九日
- 「東方の文化と風俗に驚く八冊」『NARASIA Q』Vol. 6 奈良県 二〇一四年一月 二四～二六頁
- 「年末年始はこれを読め 音楽がはぐくまれる背景」『週刊ポスト』二〇一四年一月一〇日号
- 「第一七回司馬遼太郎賞選評」『遼』五〇号 司馬遼太郎記念館 二〇一四年一月
- 「書評 鶴見太郎著『座談の思想』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一四年一月二二日
- 「書評『花森安治伝 日本の暮しをかえた男』津野海太郎／新潮社」『週刊ポスト』二〇一四年一月二四日号
- 「特別座談会 中村彰彦×氏家幹人×井上章一 日本が誇る『性の偉人』たち」『週刊現代』二〇一二年一月二五日／二月一日合併号
- 「現代の建築家・一七 黒川紀章―言葉か建築か」『GAJAPAN』126 二〇一四年一月
- 「書評 小野幸恵著『焼け跡の「白鳥の湖」』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一四年二月一二日
- 「周りのおせっかい消えた」『朝日新聞』二〇一四年二月四日
- 「名望家のつとめ」（再録）京都新聞社編『日本人の忘れもの 京都、ここに 第二部』二〇一四年二月
- 「エロスと交易 長崎貿易を支えた遊女のコスプレ」『週刊 エコノミスト』二〇一四年二月二五日特大号

「同級生交歓」『文藝春秋』二〇一四年三月特別号

「書評 呉座勇一著『戦争の日本中世史』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一四年三月五日

「市井の好奇心にこそ光」（再録）『関西よみうり懇話会』二〇一四年三月二〇日

「京がたり…日本再発見 井上章一さんの中華思想 洛中にはかにされた若き日」『毎日新聞』（東京本社版・夕刊）二〇一四年三月一九日

「書評 『つながり』の戦後文化誌 労音、そして宝塚、万博」長崎励朗著／河出書房新社『週刊ポスト』二〇一四年三月二二日号

「著述家としての建築家」（再録）二川由夫編『ル・コルビュジエ 読本』ADA・エディタ・トーキョー 二〇一四年三月

「書評 中川右介著『角川映画 一九七六—一九八六』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一四年三月二六日

「日文研の中庭で想うこと」『日文研』五二号 国際日本文化研究センター 二〇一四年三月

「大会講演 歴史は、こうしてつくられる」『史叢』第九〇号 日本大学史学会 二〇一四年三月

「現代の建築家・一八 篠原一男—日本の『虚空』に魅せられて」『GAJAPAN』127 二〇一四年三月

牛村 圭

●論文

「東京裁判を学び、そして語るために—『極東国際軍事裁判審理要録』刊行の快挙を寿ぐ—」『正論』二〇一四年二月号 二九八〜三〇七頁

●その他の執筆活動

「東京裁判研究史のなかの『バル判決』」『比較法制研究』第三六号 国士舘大学 一九九〜二二六頁

榎本 渉

●その他の執筆活動

「書評 渡邊誠著『平安時代貿易管理制度史の研究』」『社会経済史学』第七九卷第三号 社会経済史学会 二〇一三年一月 一三五〜一三七頁

「この人に注目！時代のキーパーソン 一山一寧」『週刊 新発見！日本の歴史』二〇号 朝日新聞出版 二〇一三年一月 七頁
「日宋貿易の拠点だった貿易港・博多」『週刊 新発見！日本の歴史』二一号 朝日新聞出版 二〇一三年一月 二四頁
「地図で見る明の支配と東アジアの交易」『週刊 新発見！日本の歴史』二五号 朝日新聞出版 二〇一三年一月 二六～二七頁

大塚英志

●著書

『多重人格探偵サイコ』一九卷（田島昭宇と共著）株式会社KADOKAWA 二〇一三年一〇月 一八〇頁
『黒鷲死体宅配便』一八卷（山崎峰水と共著）株式会社KADOKAWA 二〇一三年一〇月 一九二頁
『キャラクター小説の作り方』星海社 二〇一三年一〇月 三五二頁
『ストーリーメーカー 創作のための物語論』星海社 二〇一三年一月 三〇二頁
『ヨヨとネネとかいじゅうのタネ』（ひらりと共著）徳間書店 二〇一三年一月 四二頁
『とでんか』七卷（樹生ナトと共著）株式会社KADOKAWA 二〇一四年一月 一九四頁
『松岡國男妖怪退治』四卷（山崎峰水と共著）株式会社KADOKAWA 二〇一四年一月 一九二頁
『キャラクターメーカー』6つの理論とワークショップで学ぶ「つくり方」星海社 二〇一四年二月 二八〇頁
『캐릭터 소설 쓰는 법』(공민이 김성민) 북바이북 二〇一三年一〇月 三四四頁
『스토리 메이커』(공민이 신정호) 북바이북 二〇一三年一〇月 二七六頁

●論文

「山人双極論——柳田國男におけるロマン主義と社会政策論」『プラス18』太田出版 二〇一三年一月 五六～七八頁

「神戸芸術工科大学まんが教育7年間の総括——ぼくたちはまんがを教える大学で何を研究したか——」『POBIO Critiques #0』太田出版

二〇一四年三月 四～四七頁

『鉄扇公主』と『海の神兵』——東アジアまんが・アニメーション研究に向けて——『POBIO Critiques #0』太田出版 二〇一四年三月

八二～九五頁

“An Unholy Alliance of Eisenstein and Disney: The Fascist Origins of Oraku Culture.” *MECHADEMIA* 8, University of Minnesota Press, 2013, pp. 251～277.

「Perspectives/An Essay on Patriotic Boys: The Structure of Emperor Discourses as Japanese Bildungsroman」『한글비평 제 9호』二〇一三 하반기

二〇一三年 一六六～一九三頁

●その他の執筆活動

『火垂るの墓』解題』『ジブリの教科書 4 火垂るの墓』文藝春秋 二〇一三年一〇月 二二八～二四六頁

『魔女の宅急便』解題』『ジブリの教科書 5 魔女の宅急便』文藝春秋 二〇一三年二月 二八七～三〇八頁

『おもひでぼろぼろ』解題』『ジブリの教科書 6 おもひでぼろぼろ』文藝春秋 二〇一四年三月 二八九～三一頁

『書評』『アニメージュ コミックス スペシャル フィルム コミック 風立ちぬ(上・下)』『週刊ポスト』二〇一三年一月一八号

『書評』『須藤遙子「自衛隊協力映画」』『細馬宏通「ミッキーはなぜ口笛を吹くのか」』『トーマス・ラマール著／藤木秀明・大崎晴美訳「アニメ・マシーン グローバル・メディアとしての日本アニメーション」』『週刊ポスト』二〇一三年二月二〇号

『書評』宗近真一郎『バリ、メランコリア』『週刊ポスト』二〇一四年一月三十一号

『書評』師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』『週刊ポスト』二〇一四年三月二二号

『多重人格探偵サイコ』(田島昭宇と共著)『ヤングエース』二〇一三年一月号～二〇一四年四月号 株式会社KADOKAWA

『黒鷲死体宅配便』(山崎峰水と共著)『ヤングエース』二〇一三年一月号～二〇一四年四月号 株式会社KADOKAWA

『八雲百怪』(森美夏と共著)『ヤングエース』二〇一三年一月号～二〇一四年四月号 株式会社KADOKAWA

『世界まんが塾』(第二回～第七回)『ヤングエース』二〇一三年一月号～二〇一四年四月号 株式会社KADOKAWA

『もどき開口 木島日記 完結編』『怪物の民俗学』第五回、「恋する民俗学者」(中島千晴と共著)『怪』Vol. 0040 株式会社KADOKAWA

二〇一三年一月

二〇一三年一月

「とでんか」(樹生ナトと共著)、「松岡國男妖怪退治」(山崎峰水と共著)、「死舞能」(谷岡曜子と共著)『コミック怪』Vol. 24 二〇一三年秋号

株式会社 KADOKAWA 二〇一三年一〇月

「二階の住人とその時代」(連載)『熱風』二〇一三年一〇月号〜二〇一四年三月号 株式会社スタジオジブリ

郭南燕

●著書

『世界の日本研究二〇一三』(編著) 国際日本文化研究センター 二〇一三年一〇月

Refining Nature in Modern Japanese Literature: The Life and Art of Shiga Naoya, Lexington Books, February 2014.

●論文

「上海語の復興——言語文化の『雑多性』を考える」木部暢子・小松和彦・佐藤洋一郎編『アジアの人びとの自然観をたどる』勉誠出版

二〇一三年一月 一九三〜二〇七頁

●その他の執筆活動

「座談会2 フィールドとしての中国」(窪田順平・佐藤洋一郎・村松伸と)木部暢子・小松和彦・佐藤洋一郎編『アジアの人びとの自然観をたどる』勉誠出版 二〇一三年一月 二八九〜三四一頁

笠谷和比古

●著書

『武士道——侍社会の倫理と文化』NTT出版 二〇一四年二月 一七四頁

●その他の執筆活動

「武士道」「赤穂事件論」石田一良・石毛忠編『日本思想史事典』東京堂出版 二〇一三年一〇月

「近世の幕府と朝廷(七) 紫衣事件(続)」『究』一〇月号(通巻第三二号) ミネルヴァ書房 二〇一三年一〇月

「近世の幕府と朝廷(八) 明正女帝の即位」『究』十一月号(通巻第三三二号) ミネルヴァ書房 二〇一三年十一月

「大石内蔵助と茶の湯」『なごみ』二〇一三年二月号 淡交社

「近世の幕府と朝廷（九）家光政権と朝幕関係の転回」『究』二月号（通卷第三三三号）ミネルヴァ書房 二〇一三年二月

「近世の幕府と朝廷（一〇）後水尾天皇と東福門院」『究』一月号（通卷第三四号）ミネルヴァ書房 二〇一四年一月

「近世の幕府と朝廷（一一）朝廷官位と近世武家社会（一）」『究』二月号（通卷第三五号）ミネルヴァ書房 二〇一四年二月

「近世の幕府と朝廷（一二）朝廷官位と近世武家社会（二）」『究』三月号（通卷第三六号）ミネルヴァ書房 二〇一四年三月

北浦寛之

●その他の執筆活動

「資料整理の意義と可能性」『神戸の映像文化―「神戸と映画」「神戸映像アーカイブプロジェクト」の取り組み』神戸ドキュメンタリー映画祭実行委員会 二〇一四年三月

倉本一宏

●著書

『講談社選書メチエ 藤原道長「御堂関白記」を読む』講談社 二〇一三年二月 二六九頁

●論文

「大王の朝廷と推古朝」『岩波講座 日本歴史第二卷 古代二』岩波書店 二〇一四年三月 一〜三四頁

●その他の執筆活動

「本当は激務だった平安貴族」「壬申の乱の陰に『唐VS新羅の戦争』」「文藝春秋」二〇一三年一月号 二八六〜二八七頁、二九二〜二九四頁
「世界が驚愕した日本人五四人 藤原道長 資本論に並んだ御堂関白記」『文藝春秋』二〇一四年新年特別号 三〇〇〜三〇三頁

小松和彦

● 著書

『アジアの人びとの自然観をたどる』（木部暢子・佐藤洋一郎と共編）勉誠出版 二〇一三年一月

● 論文

「カミの変遷 刈部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士編『岩波講座 日本の思想第八巻 聖なるものへ——躍動するカミとホトケ』岩波書店 二〇一四年一月

● その他の執筆活動

「座談会1 東アジア海の文化と歴史―地域を越えた普遍性と固有性」（木部暢子・窪園晴夫・佐藤洋一郎・中野孝教・安井真奈美と）木部暢

子・小松和彦・佐藤洋一郎編『アジアの人びとの自然観をたどる』勉誠出版 二〇一三年一月

「解説」高橋克彦著『長人鬼』（日経文芸文庫）日本経済新聞出版社 二〇一四年一月

「『ミステリアス京都』ミステリアス京都は幻想のなかにある（上）」『創造する市民』第一〇二号（公財）京都市生涯学習振興財団 二〇一四年一月

「序文」山本眞樹編『怪の壺 復刻版…あやしい古典文学』学研マーケティング 二〇一四年二月

「日本の妖怪観念の基層を考える「要旨」劉建輝・佐野真由子編『日本研究』再考——北欧の実践から——北欧シンポジウム二〇一二』国際

日本文化研究センター 二〇一四年三月

「研究所としての日文研」『日文研』五二号 国際日本文化研究センター 二〇一四年三月

佐野真由子

● 著書

Rethinking "Japanese Studies," from Practices in the Nordic Region. Liu Jianhui and Sano Mayuko eds., International Research Center for Japanese Studies, 2014.

●その他の執筆活動

「幕末 初代駐日英国公使オールコックの富士登山」『環—歴史・環境・文明』Vol.55 藤原書店 二〇一三年一〇月

末木文美士

●著書

『日本仏教入門』（角川選書） 角川学芸出版 二〇一四年三月 二七九頁

『シリーズ大乘仏教五 仏と浄土』（共編著） 春秋社 二〇一三年一〇月

『シリーズ大乘仏教一〇 大乘仏教のアジア』（共編著） 春秋社 二〇一三年一〇月

『シリーズ大乘仏教八 如来蔵と仏性』（共編著） 春秋社 二〇一四年一月

『岩波講座 日本の思想』第三巻、第七〜八巻（刈部直・黒住真・佐藤弘夫と共編） 岩波書店 二〇一三年一二月、二〇一四年一月、二月

『妙貞問答を読む——ハビアンの仏教批判』（編著） 法蔵館 二〇一四年三月 四八七頁

『ブッダの変貌——交錯する近代仏教』（共編著） 法蔵館 二〇一四年三月 四二六頁

●論文

「阿弥陀仏浄土の誕生」『シリーズ大乘仏教五 仏と浄土』春秋社 二〇一三年一〇月 二一〇〜二三八頁

「大乘非仏説論から大乘仏教成立論へ——近代日本の大乘仏教言説」『シリーズ大乘仏教一〇 大乘仏教のアジア』春秋社 二〇一三年一〇月

二八五〜三二二頁

「批判的思維の有効性——マルクス主義と日本思想史」『日本の哲学』第一四号 昭和堂 二〇一三年一二月 九四〜一〇九頁

「親鸞像の形成——親鸞の見た親鸞、恵信尼の見た親鸞」『東方学報（京都）』第八八冊 京都大学人文科学研究所 二〇一三年一二月 二二一

〜二四三頁

「儀礼と創造——美・芸術から儀礼の場へ」『岩波講座 日本の思想 第七巻 儀礼と創造——美と芸術の原初』岩波書店 二〇一三年一二月

三〜二七頁

「死者と時間について」月本昭男先生退職記念献呈論文集第一巻「世界の宗教といかに向き合うか」聖公会出版 二〇一四年三月 二二一～二二七頁

「高山寺所蔵高麗版統藏写本に見る近代仏教」『平成二五年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』 二〇一四年三月 三～五頁

「田辺元『懺悔道としての哲学』をめぐる」『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集』佼成出版社 二〇一四年三月 一〇七七～一〇八五頁

「妙貞問答」をめぐる」『妙貞問答を読む——ハビアンンの仏教批判』法蔵館 二〇一四年三月 三〇三～三二〇頁

「総論 伝統と近代」末木文美士・林淳・吉永進一・大谷栄一編『ブッダの変貌——交錯する近代仏教』法蔵館 二〇一四年三月 三二一～三四五頁

●その他の執筆活動

「近代と宗教（連載）『朝日新聞』（大阪本社版・夕刊）二〇一三年一〇月二八日、一一月二五日、一二月一六日、二〇一四年一月二七日、二月二四日、三月三十一日

「解説」井上章一著『日本人とキリスト教』角川学芸出版 二〇一三年一〇月 二二七～二三四頁

「マイナスはプラスに転化できない」『児童心理』二〇一三年一〇月号臨時増刊 金子書房 二〇一三年一〇月 九六～一〇二頁

「災害天罰論を再度考える」『中外日報』二〇一三年一〇月五日号

「新しい親鸞像をめざして」『信道二〇一二』（信道講座年間講義録）真宗大谷派名古屋別院 二〇一三年一〇月 四一～六三頁

「書評 島内景二著『心訳「鳥の空音（そらね）」——元禄の女性思想家、飯塚染子、禪に挑む』（笠間書院）』『週刊読書人』二〇一三年一月一九日号

「鼎談『日蓮思想の現代的意義』』『中外日報』二〇一三年一月二二日号

「インタビュー『死者との関わり 見直す時』』『読売新聞』（夕刊）二〇一三年二月一六日

「対談『仏教の倫理、正法の仏教史』』『中外日報』二〇一三年一月一日、三日、七日号

「浄土という問題系」『中日新聞』『東京新聞』二〇一四年一月二五日、二月一日、二月八日

「日本仏教史の中の近代（講演記録）」智山伝法院編・廣澤隆之・宮坂有洪監修『近代仏教を問う』春秋社 二〇一四年一月 七三～八六頁

「書評『井筒俊彦全集』』『中外日報』二〇一四年一月一日号

「書評 小山聡子著『親鸞の信仰と呪術―病氣治療と臨終行儀』」『史境』六七号 歴史人類学会 二〇一四年三月 八八〜九三頁
 「日本仏教の課題とその可能性(講演記録)」大谷大学真宗総合研究所真宗同朋会運動研究班『同朋会運動の原像―体験告白と解説』 法藏館 二〇一四年三月 一一七〜一三五頁

「書評 島蘭進『日本仏教の社会倫理』」『東方』二九 二二二〜二三三頁

瀧井一博

● 著書

Ito Hirobumi, Japan's First Prime Minister and Father of the Meiji Constitution, translated by Manabu Takechi, Routledge, 2014.

● 論文

「植民地帝国大学のエートス―台北帝国大学初代総長幣原坦の思想形成」酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房 二〇一四年二月 四五〜七四頁

「伊藤博文とユナイテッド・ステーツ (United States) ―ステーツマン (Statesman) としての制度哲学」戸部良一編『近代日本のリーダーシップ―岐路に立つ指導者たち』千倉書房 二〇一四年三月 二二〜四一頁

● その他の執筆活動

「明治憲法の制定とドイツの影響」日独交流史編集委員会編『日独交流―一五〇年の軌跡』雄松堂書店 二〇一三年一〇月 七〇〜七六頁

「政治学の古典を読む(五) ガバナンスと生政治」『究』一一月号(通巻第三二二号) ミネルヴァ書房 二〇一三年一月 四四〜四五頁

「政治学の古典を読む(六) 『文の政治家』の実像」『究』二月号(通巻第三五号) ミネルヴァ書房 二〇一四年二月 四四〜四五頁

(書評) "The Constitution of Japan: A Contextual Analysis, by Shigenori Matsui, Hart Publishing, Oxford, 2011." *Journal of Japanese Studies*, 40:1, 2014, pp. 235–239.

早川聞多

● 論文

“Who Were the Audiences for Shunga?” *The Exhibition Catalogue of Shunga: sex and pleasure in Japanese art*, The British Museum Press, October 3, 2013, pp. 34–47.

“Listening to the Voices in Shunga,” *The Exhibition Catalogue of Shunga: sex and pleasure in Japanese art*, The British Museum Press, October 3, 2013, pp. 162–168.

「対談 原点はデーターベース化」京都から春画を発信する 早川聞多×石上阿希『芸術新潮』二〇一三年一二月号 二〇一三年十一月 七〇～七三頁

● その他の執筆活動

『江戸の春画を知りたい』（監修）学研ハブリッキング 二〇一三年一〇月

“SHUNGA: Ten Questions and Answers,” translated by Andrew Gerstle, *Nichibunken Monograph Series No. 14*, International Research Center for Japanese Studies, December 2013.

パトリシア・フィスター

● 論文

“In Memoriam? Rethinking the Portrait Sculptures of Princess-Abesses Enshrined in the Dharna Hall at Shimmyoji Temple.” *Rethinking Japanese Studies, from Practices in the Nordic Region*, Liu Jianhui and Sano Mayuko eds., International Research Center for Japanese Studies, 2014, pp. 63–73.

ジョン・ブリン

● 著書

Last, Commerce, and Corruption: An Account of What I Have Seen and Heard, by an Edo Samurai, translated by Mark Teuwen, Kate Wildman Nakai,

Miyazaki Fumiko, Anne Warthall, and John Breen, Columbia University Press, February 2014, pp. 496.

● 論文

“Popes, Bishops, and War Criminals: Reflections on Catholics and Yasukuni in Post-war Japan,” reprinted in Michael Bathgate ed., *Course Reader 10: “Religion in modern Asia: Tradition, state and society.” The Asia Pacific Journal, Japan Focus*, 2013.

“The Nation’s Shrine: Conflict and Commemoration at Yasukuni, Modern Japan’s Shrine to the War Dead,” Rachel Tsang and Eric Taylor Woods eds., *The Cultural Politics of Nationalism and Nation-building: Ritual and Performance in the Forging of Nations*, Routledge, 2014, pp. 133–150.

「あら、うさやうさやー『妙貞問答』『神道のこと』について」末木文美士編『妙貞問答を読む——ノンビマンの仏教批判』（編著）法蔵館 二〇一四年三月 四三九〜四五八頁

● その他の執筆活動

「神社巡り：三ノ宮神社」『神道フォーラム』四七号 神道国際学会 二〇一三年九月 三頁

「伊勢『遷御の儀』首相参列の意味」『朝日新聞』（夕刊）二〇一三年一〇月二三日

「伊勢神宮と遷御の儀」*Nichibunken Newsletter* No. 88 二〇一三年十二月 九〜一〇頁

“Warriors,” (Translation) *Lust, Commerce, and Corruption: An Account of What I Have Seen and Heard, by an Edo Samurai*, Columbia University Press, February 2014, pp. 42–94.

“Pariah and Outcasts” (Translation) *Lust, Commerce, and Corruption: An Account of What I Have Seen and Heard, by an Edo Samurai*, Columbia University Press, February 2014, pp. 368–372.

「二〇一三年の式年遷宮に思う」『神道フォーラム』四八号 神道国際学会 二〇一四年二月 二頁

細川周平

● 著書

『コレクション・モダン都市文化 第五期 第九三巻 南米への移民』（編著）ゆまに書房 二〇一三年一二月

●論文

“Sketches of Silent Film Sound in Japan: Theatrical Functions of Ballyhoo, Orchestras, and Kabuki Ensembles,” Daisuke Miyao ed., *The Oxford Handbook of Japanese Cinema*, Oxford, 2014, pp. 288-305.

“A Glimpse at Japanese-Brazilian Literature,” *Ex Oriente Lux: Japanese Culture and We*, Kornelija Ishin and Kayoko Yamasaki eds., Faculty of Philology, University of Beograd, Beograd, 2014, pp. 100-112.

●その他の執筆活動

「音楽評 大友良英&『あまちゃん』スペシャル・ビッグバンド」『毎日新聞』（関西版・夕刊）二〇一三年一〇月一六日

「書評 油井正一著、行方均編著『ジャズ昭和史』」『週刊読書人』二〇一三年一〇月二五日号

「日々是好音——細川周平の音楽時評第一回 清水靖晃＋カール・ストーン『Just Breathing!』」『アルテス』二〇一三年一〇月号 六八〜七三頁

「コラム 三沢厚彦 あんなどこにヤモリ」『中日新聞』二〇一三年十一月一日

「十七音の風景（三三三） ブラジルの十二月」『ラジオ深夜便』二〇一三年一二月号 一〇四〜一〇七頁（『ブラジル俳文学』通巻三五七号・二〇一四年二月号 二三〜二六頁、『蜂鳥』三一七号 二〇一四年一・二月号 三八〜三九頁に再録）

「コンサート評 京都賞記念ワークショップ セシル・テイラーの世界 構造と即興」『毎日新聞』（関西版）二〇一三年一二月二七日

「インタビュー 南米ブラジルに、日本語で『文学する』人びとがいる」『都市問題』二〇一三年一二月号 公益財団法人後藤・安田記念東京都

市研究所 二九〜四二頁（『ふろんていら』四〇号 二〇一三年三月号 三二〜四八頁に再録）

「書評 貴志俊彦著『東アジア流行歌アワー』」『日本経済新聞』二〇一三年一二月八日

「日々是好音——細川周平の音楽時評第二回 セシル・テイラーと田中泯——気の合う二人」『アルテス』二〇一三年一二月号 八五〜九二頁

「南米雄飛を求めて」細川周平編『コレクション・モダン都市文化 第五期 第九三巻 南米への移民』ゆまに書房 二〇一三年一二月

六五三〜六八一頁

「日々是好音——細川周平の音楽時評第三回 イースト・セントルイスのセシル・テイラー」『アルテス』二〇一四年二月号 七一〜七六頁

「書評 アンドレ・シェフネル著、昼間賢訳『始原のジャズ』」『ポピュラー音楽研究』Vol.17 日本ポピュラー音楽学会 二〇一三年 六一〜

六三頁

「報告 ベルトとブラジル日系移民史料館所蔵資料について」『人間文化研究情報資源共有化研究会報告書5』二〇一四年三月 七九〜八三頁

「座談会 ラテンアメリカの移民文化を語る」(川村湊・山脇千賀子・守屋貴嗣と)『インターカルチュラル』一二号 日本国際文化学会 風行社 二〇一四年三月 二〜二六頁

松田利彦

●著書

『帝国日本と植民地大学』(酒井哲哉と共編著) ゆまに書房 二〇一四年二月 六二四頁

●論文

「植民地大学比較史研究の可能性と課題——京城帝国大学と台北帝国大学の比較を軸として」『京城帝国大学の創設「あとがき」酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房 二〇一四年二月 二三〜四二頁、一〇七〜一四八頁、六一七〜六一八頁

「韓国駐劄軍参謀長・大谷喜久蔵と韓国・大谷関係資料を中心に」鄭炳旭・板垣竜太編『日記が語る近代・韓国・日本・ドイツの共同研究』同志社コリア研究センター 二〇一四年三月 一七五〜二〇二頁

「東亜聯盟運動に参加した朝鮮人―曹寧柱と姜永錫―趙景達・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄編『講座 東アジアの知識人 第四卷 戦争と向き合っ—満洲事変〜日本敗戦—』有志舎 二〇一四年三月 三一〇〜三二五頁

●その他の執筆活動

「共同研究『植民地帝国日本における知と権力』」*Nichibunken News Letter* No. 88 二〇一三年一月 八〜九頁

「書評 李炯植著『朝鮮総督府官僚の統治構想』吉川弘文館 二〇一三年三月」『日本歴史』二〇一三年一月号(七八七) 吉川弘文館 一一七〜一九頁

山田 奨治

● 論文

- 「人文科学とコンピュータ研究会の幹事・主査だった頃——「じんもんこん」のことなど」『情報処理学会研究報告 人文科学とコンピュータ研究会報告』2013-CH-100(4) 二〇一三年一月 一〜三頁
- 「文化財のデジタル複製・置換を考える」『カルコン美術対話委員会イニシアチブ「日米美術フォーラム〜ミュージアムの未来〜」報告書』文化庁 二〇一三年一〇月 二八〜三〇頁

劉 建輝

● 著書

- 『国際研究集会報告書第四四集 東アジアにおける知的交流——キイ・コンセプトの再検討——』（鈴木貞美と共編）国際日本文化研究センター 二〇一三年十一月 四〇五頁
- 『日本研究』再考——北欧の実践から——北欧シンポジウム二〇一二——（佐野真由子と共編）国際日本文化研究センター 二〇一四年三月 二六一頁

- 『日華学会関連高橋君平文書資料Ⅱ』（編著）国際日本文化研究センター 二〇一四年三月 三一九頁
- 『東アジアにおける近代知の空間の形成』（孫江と共編）東方書店 二〇一四年三月 四四八頁

● 論文

- 「日中洋西壇の架け橋——陳抱一・瀧本弘之・戦暁梅編『アジア遊学一六八 近代中国美術の胎動』勉誠出版 二〇一三年一月 一八五〜一九五頁
- 「上海の冲击——汉译洋书的日本传入与明治汉文的复兴」（中国語）胡令遠・徐静波・龐志春編『東亜文明——共振与更生』復旦大学出版社 二〇一三年一月 三三六〜三五四頁
- 「近代東アジアの濫觴——広州十三行の歴史の意味」徐興慶編『日本学研究叢書8 近代東アジアのアボリア』国立台湾大学出版中心 二〇一四年一月 四七〜六六頁

「もう一つの『近代（モダン）』ロード——一九世紀の日欧交流における広東、上海の役割」劉建輝・佐野真由子編『日本研究』再考——北欧の实践から——北欧シンポジウム二〇一二年『国際日本文化研究センター』二〇一四年三月 二一五～二二八頁

「近代知の濫觴——生成の場としての広州十三行」孫江・劉建輝編『東アジアにおける近代知の空間の形成』東方書店 二〇一四年三月 一三九～一五七頁

●その他の執筆活動

「インタビュー 日本学探見5 近代化支えた知の連帯」『京都新聞』二〇一四年三月二〇日